

緑の相談所だより

No.124

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 電話 0166-65-5553



発行:平成 22 年 6 月 1 日

講習会のご案内

「アツモリソウの無菌培養と育て方」

とき 平成 22 年 6 月 6 日(日)
午後 1:30~3:30 定員 50 名
講師 北海道山草趣味の会 森下光晴さん

「神楽岡公園自然観察会」

— 初夏の野草観察 —
とき 平成 22 年 6 月 13 日(日)
午後 1:30~3:30 親子・一般 30 名
講師 旭川帰化植物研究会
代表 塩田惇さん

「庭木(ツツジ)の剪定」(実習)

とき 平成 22 年 6 月 20 日(日)
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 旭川市公園緑地協会 職員



「バラづくり実践」

— 剪定と育て方 —
とき 平成 22 年 6 月 27 日(日)
午後 1:30~3:30 定員 50 名
講師 旭川バラ会
副会長 後路和美さん



「花と庭木の害虫」

とき 平成 22 年 7 月 4 日(日)
午後 1:30~3:30 定員 50 名
講師 旭川市緑の相談所 相談員

「観葉植物の寄せ植え」(実習)

とき 平成 22 年 7 月 11 日(日)教材費 600 円
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 旭川市緑の相談所 相談員

展示会のご案内

「神楽岡公園とその周辺の植物展」	「山野草展」
出展:旭川みどり 21 の会	出展:北海道山草趣味の会
平成 22 年 6 月 1 日~17 日	平成 22 年 6 月 4 日~6 日
「バラ展」 出展:旭川バラ会	「温室の植物写真展」 出展:三人展
平成 22 年 6 月 26 日~27 日	平成 22 年 7 月 1 日~8 月 1 日

お知らせ

花フェスタ2010旭川 6月9日~13日
大雪アリーナ:会場内に相談コーナー
クリスタルパークでお茶会(野点)開催 13 日

緑のセンターまつり2010 8月8日(日)

場所:緑の相談所内・神楽岡公園
催事:親子もちつき、球根プレゼント、寄せ
植え教室、園芸市、野菜・果物即売、
神楽岡太鼓、よさこい、フラワービンゴ大会
❖楽しいイベントが盛りだくさん!

展示会の初日は準備のため、ご観覧は午後からです。
4月~10月は第2・第4月曜日が休館日です。
11月~3月は毎週月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)
※各講習会のお申込み受付は前月の20日から、定員になり次第締切です

6月の園芸作業

1 草花・球根・鉢花類

秋植え球根のチューリップなどは、花が終わったら、花がら摘みを行い、葉は刈り取らず、球根の肥大を図ります。

ダリア、グラジオラスなど春植え球根は植え付けの適期です。

観葉植物のカポックなど節間が伸び乱れた株は切り戻して剪定し、取り木をする時期です。また、根詰まりしている鉢は植え替えの適期です。

ポインセチアは剪定し、植え替えの時期です。処理後2週間までは水やりのみ、新芽の発生で液肥を与えましょう。

ハイビスカス、ブーゲンビレア、クチナシなど植え替えの適期です。ポイントは必要以上に鉢を大きくしないこと。(1号分程度)

シャコバサボテン、クジャクサボテンなどは外に出し太陽の光を十分に当てましょう。

2 庭木・果樹類

クロマツなどのマツ類は移植、定植の時期です。また、新芽が伸び樹形が乱れてくるのでみどり摘みといって柔らかい棒状の芽を指で折って調整しましょう。

ツツジ、シャクナゲ、ライラックなどは花後、花がら摘みをしましょう。

リンゴ、ナシはなるべく早く一箇所から出た複数果実のうち形が良くて大きい果実を1つ残し、プラムやプルーンは果実がぶつからない程度に摘果しましょう。

ブドウの副芽や込み合っている芽を摘除する芽かきを行います。また新梢は受光環境をよくするため早めに誘引しましょう。

シンクイガの発生が多くなりますので、ダイアジン粒剤を中旬に1㎡あたり10g程度散布しましょう。リンゴ、ナシは袋かけ(6月下旬～7月上旬)をし、スモモ類は定期的に殺虫剤を散布しましょう。

7月の園芸作業

1 草花・球根・鉢花類

パンジー、デージーは来年の春花壇用に中旬ごろまでに種をまきましょう。

春植え球根のダリア、カンナ、グラジオラスなどは盛んに生長していますので支柱立てをし開花後は花がら摘みをしましょう。

ブーゲンビレアは開花期です。開花後、新梢が伸びたら順次切り戻し、水やりを控え、日当たりの良い場所で管理しましょう。

ポインセチアは生育が盛んな時期です。肥料と水は切らさず、日光に十分当てましょう。

クジャクサボテンは直射日光に十分当て肥培管理し茎を太らせましょう。

四季咲きペコニアの伸びた茎をピンチ(切り戻し剪定)することで新芽が伸び、次々と花をつけますので忘れないようにやりましょう。

2 庭木・果樹類

針葉樹の枝は葉が付いていないと枯れやすいので、深く刈り込んだ強剪定はできませんので注意しましょう。

生垣、玉物、イチイ(2度刈り)の剪定時期です。なお、花木類はすでに花芽ができてしまっているため刈り込むと全体の花芽を落としてしまうので注意しましょう。

ライラック、レンギョウ、フジ、ツツジなどは花芽ができる時期なので、リン、カリを多く含む肥料をやりましょう。

今月下旬、スモモ類にシンクイガの2回目の産卵期ですので、殺虫剤を散布しましょう。また、リンゴに黒点病、ナシに赤星病などが発生しやすいので殺菌剤を散布しましょう。

リンゴ、ナシ、サクランボ、スモモなどは枝の背面から直立した枝(徒長枝)が勢い良く出て、日当たりを悪くしますので剪定しましょう。(夏剪定)

植物物の病害虫

その7 「オウトウハマダラミバエ（オウトウミバエ）」

普通オウトウミバエと呼ばれています。オウトウ、サクラの果実を食害します。

○ 被 害

成虫が幼果に産卵するため、産卵痕が暗褐色となり、果実は凸凹となります。また幼虫が果実の内部を食い荒らすので、種子と果肉がはなれて変色します。寄生された果実は商品になりません。

○ 生 態

年 1 回発生します。蛹は土中 5 cm 程度の深さで越冬します。

成虫は5月上旬から羽化しはじめ、6月中旬まで羽化が続きます。成虫は黄褐色～暗褐色のハエで、翅には淡い暗褐色の斑紋があります。5月末ころに果実が小指の頭大になると産卵が始まります。通常は1果実に1粒ずつ産卵しますが、発生が多くなると1果実に5～6粒以上産卵されることもあります。

幼虫は7月上旬より果実から脱出しはじめ、地上に落下します。幼虫はうじ虫が体をわん曲させて飛びはねながら越冬場所を探し、地中に潜入し、3～6 cm の深さで蛹化します。

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
防除時期	地表面薬剤散布		樹冠薬剤散布		
発生時期			産卵期(果実内)		
			幼虫期 (果実内)		
		成虫羽化			
	蛹期 (地中)			蛹期 (地中)	

オウトウハマダラミバエの発生期と防除時期

○ 防 除

- 1、前年多発したオウトウ園では、樹冠散布に先だって羽化前の樹下地表面散布を実施するのが有効です。
- 2、防除の重点を果実への産卵防止に置き、産卵初期（5月下旬）またはその直前から樹冠散布を始め、その後産卵終息期までほぼ1週間おきに3～4回実施するのが効率的です。
- 3、成虫は午前中に羽化し、体が硬化するまで樹幹に静止しているので、薬剤散布は午前中に行なうのが、効果的です。
- 4、次年の被害を少なくするため、被害果は果実から幼虫の脱出する6月下旬頃までに摘み取り、1週間以上水漬け処分しましょう。土中への埋没は効果がありません。

シンビジュウムの管理

6月に入るとおそ霜もなくなりシンビジュウムの屋外での管理がはじまります。その概要を見ましょう。

1. 花が終わると

花が終わり花梗を切ると花梗の出たバルブから三角の芽が沢山でます。そのうちの大きな芽一つのみを残し他は全部欠き取ります。

2. 屋外の肥培

6月に入ったら屋外の日光の当たる所に置いて1で残った芽を発酵油粕（置き肥）を置き、水をかけて育てます。水は乾いたら与え、置き肥は1カ月に1回取り替えます。9月に入ったら置き肥を取り除き、リン酸・カリの含む肥料(ハイポネックスの赤ラベル等)の液肥を10月上旬までに3回与え、その後は乾いたら水を与えるだけで降霜直前頃まで育てます。

3. 室内への取り込み

霜が降る頃（10月下旬頃）になると室内に取り込みますが15℃前後の涼しい所に置いて管理する（乾いたら水を与える程度）。この間に新芽が育ったバルブから芽が多く出てきます。この芽は欠き取りますがその中に花芽が混じっているので注意して花芽を残すことが重要です。花芽は丸みをおびており柔らかです。他の芽は硬く三角なので見分けることが大切です。そのうち花梗が伸びてきて美しい花が見られます。

展示室の植物（31）



クダモノトケイソウ（パッションフルーツ） トケイソウ科トケイソウ属

ブラジル原産の常緑つる性低木で日本では沖縄、小笠原の各島で栽培されています。花が時計の文字盤を思わせるために名づけられています。実は卵形で甘酸味がありジュースとして飲用されています。